

サバティカル期間における研究経過・成果報告書

2025年 10月 24日	
国立大学法人茨城大学長 殿	
所属・職名 人文社会科学野教授	
氏 名 野田真里	
下記のとおり、サバティカル期間が満了しましたので、研究経過・成果等を提出いたします。	
サバティカル制度を利用した期間	2025 年 4月 1日 ～ 2025年 9月 20日

①研究経過について （利用期間を月単位などに区分して、具体的な研究経過を記入して下さい。）	・4月～6月：名古屋大学大学院国際開発研究科にて、国際開発、持続可能な開発・SDGsにかんする文献調査、ヒアリング、意見交換等の研究活動を行った。同研究科の研究会（共催、国際開発学会「SDGsを問い直す」研究部会）にて発表を行った（下記②を参照）。 ・7月～8月：カンボジア・王立プノンペン大学にて、文献調査、ヒアリング、意見交換及等の研究活動を行った。プノンペン特別市、バタンバン州、スヴァイリエン州にて大学、研究機関、政府機関、開発機関、NGO、住民組織、寺院等を対象に文献調査、インタビュー、フォーカスグループディスカッション等の研究活動を行った。 ・7月～9月：東京大学大学院教育学研究科にて、カンボジアを中心に人間の安全保障を踏まえた教育と開発にかんする文献調査、ヒアリング、研究会等の研究活動を行った。科学研究費補助金（基盤B）申請・獲得に向けた研究を行った（下記②を参照）。
②研究成果について （目標の達成状況及び研究成果の公表予定について記入して下さい。）	・期間中に次の研究発表を行った（英語による）。 Visiting Fellow Seminar, Graduate School of International Development, Nagoya University, on 13 June 2025. Theme: <i>Searching for Alternative Approach to SDGs</i> Co-organized by SDGs Re-examined Research Group, Japan Society for International Development. ・研究成果の公表・刊行（日本語・英語）につき、国際開発学会、日本比較教育学会、人間の安全保障学会や関連分野の国際学会等における学会発表、学術雑誌への論文投稿を行うとともに、書籍の刊行等を計画する予定である。 ・また、サバティカルでの研究に基づいて申請した科学研究費補助金（基盤B）が採択された場合、「社会経済構造の転換期にあるカンボジアにおける教職の専門職化に関する実証的研究」をテーマに、同教育青年スポーツ省、王立プノンペン大学、国立教育研究所、教員養成大学等との国際共同研究を実施する予定である。